

栃木県埋蔵文化財センターだより

発行 平成25年3月28日
 栃木県教育委員会
 宇都宮市埜田1-1-20
 TEL 028-623-3425
 編集 (財)とちぎ未来づくり財団
 埋蔵文化財センター
 下野市紫474
 TEL 0285-44-8441
 FAX 0285-44-8445
 URL <http://www.maibun.or.jp>

2013
3月
やま
かいど



CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
市ノ塚遺跡（真岡市）
- 市町教育委員会が実施した発掘調査・整理作業から
奥戸遺跡（足利市）針ヶ谷新田遺跡（宇都宮市）
赤見市場古墳（佐野市）烏山城跡（那須烏山市）
- ドキ土器体験 part1
勾玉つくりと土器つくり
古代炊飯体験
- 特集 古墳の形
- ドキ土器体験 part2
学校で歴史学習出前授業
センターで職場体験

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

1. 市ノ塚遺跡（真岡市）－これまでの発掘調査のまとめ－

市ノ塚遺跡は、真岡市高田字市之塚に所在し、小貝川西岸の低い台地の上に立地しています。遺跡は、南北約1.3km、東西約200mの広大な範囲に及びます。平成15・16年度には圃場整備事業予定地内23,200㎡、平成23・24年度には県道予定地約4,000㎡を発掘調査しました。また、真岡市による市道拡幅に伴う発掘調査も行われています。

これらの調査で縄文時代早期および古墳時代から中世におよぶ多数の遺構・遺物が発見されました。



市ノ塚遺跡の位置



①縄文時代早期の竪穴住居跡と陥し穴

縄文時代早期前葉（今から11,500～10,500年前）の竪穴住居跡8軒が見つかりました。定住生活（住居を構え、そこに長期間住む生活）が本格化する時期です。獣を獲る陥し穴も発見されました。



③発見された青磁碗

室町時代（今から600年前）の地下式坑から青磁の碗が発見されました。中国の元からの舶来品で、当時としては相当高価なものです。こうしたものを持つた有力者が居たことがわかりました。



②古墳時代前期の玉作り工房

古墳時代前期（今から1,600～650年前）の玉類を作った工房跡3軒を調査しました。マカロニ形の管玉が主な製品で、未製品、破損品および砥石なども出土しました。

市ノ塚遺跡遺構数一覧

縄文時代	遺構	数	古墳時代	遺構	数
縄文時代	竪穴住居跡	8	古墳時代	土坑	2
	土坑	16		円形有段遺構	4
古墳時代	竪穴住居跡	288	中世	方形区画溝	1
	堀立柱建物跡	6		堀立柱建物跡	6
	土坑	20		柵列	2
	溝跡	14		方形竪穴	42
	古墳・墳墓	11		地下式坑	14
	円形周溝遺構	1		井戸跡	32
古代	方形区画	1	溝跡	73	
	竪穴住居跡	27	小穴	1736	

市町教育委員会が実施した発掘調査・整理作業から

2. 奥戸遺跡（足利市）－縄文時代中期後半の集落跡を確認－

奥戸遺跡は足利市の中心部から南東に約7km、渡良瀬川がクランク状に変流する部分と尾名川に挟まれた低地帯に立地します。渡良瀬川の流水による遺跡の浸食が激しいことから、増水時に遺跡の崩壊が懸念される部分について平成17年から24年にかけて発掘調査を実施しました。その結果、縄文時代の住居跡5軒、土坑1基、古代の溝跡2条、中世の井戸跡2基、土坑9基が確認されました。現在、整理作業が進められています。

この内、竪穴住居跡は四隅の角が丸くなった方形で壁溝がめぐり、柱穴や炉跡などが確認されました。埋土より縄文時代中期後半の土器および石器が大量に出土したことから、調査区が集落跡の中心部付近であった可能性が考えられます。また、中世の土坑からは板碑や北宋銭などが出土しており、内1基からは馬1頭分の骨がほぼ揃った状態で出土していることなどから、中世においては墓域が広がっていたと考えられます。（足利市教育委員会 0284-20-2230）



奥戸遺跡の位置



竪穴住居跡 SI-01 完掘状況



馬の埋葬遺構

3. 針ヶ谷新田遺跡（宇都宮市）－弥生時代のムラと古墳を発見－

針ヶ谷新田遺跡は、新川の支流の兵庫川が東側を流れる舌状台地の南緩斜面上に立地します。今回の調査では、弥生時代後期の二軒屋式期の竪穴住居跡が6軒と古墳時代終末期の古墳2基が確認されました。

住居跡は長軸が4～5m、短軸が3～4mの長方形で、4本の柱穴と、中央に炉があります。住居跡内からは、二軒屋式土器、石鏃、紡錘車が出土しました。この時期の集落は、県内であり見つかっておらず、また、集落の全体像がわかる例も少ないことから、本県の弥生時代を考える上で注目される発見です。

古墳は、凝灰岩の切石と川原石を使用した横穴式石室をもつ円墳（径24m）と方墳（一辺20m）が南北に並んで確認されました。（宇都宮市教育委員会 028-632-2764）



針ヶ谷新田遺跡の位置



弥生時代の竪穴住居跡



2号墳全景（西から）

4. 赤見市場古墳（佐野市）－古墳の石室を確認－

赤見市場古墳は、佐野市赤見町に所在しており、周辺には多数の古墳が点在しています。当古墳の墳丘の上には、神社の社殿が築かれていましたが、東日本大震災により、同神社の石垣が一部崩落する被害が発生しました。このため石垣の改修が行われることになり、市教育委員会で工事に立ち会っていたところ、石垣に覆われていた中から、古墳の石室が発見されました。発見後、直ちに神社氏子と話し合い、石室及びその周囲については保存を図るように、改修工事の計画が大幅に見直されることとなりました。

その一方で、市教育委員会により、古墳の現状を把握するための調査を、平成24年5月から8月にかけて実施しました。その中で、石室内部の写真撮影を行ったところ、轡くつわや金銅製吊金具などの馬具や大刀などと考えられる副葬品が複数、残されていることが確認できました。（佐野市教育委員会 0283-61-1174）



赤見市場古墳の位置



石室内部の様子



馬具と考えられる金属製品

5. 烏山城跡（那須烏山市）－お城を守るための工夫がいっぱい－

烏山城跡の調査は、今現在どのくらい遺跡が残っているのかを確認する目的で始まり、今年度で4回目となります。これまでは古本丸平坦面、本丸高段部分、本丸平坦部分の調査をおこなってきました。その結果、もとの自然地形を利用しながらも、主要な部分では大規模な普請（土木工事）を行っていることなどがわかり、比較的良い残存状況と言えそうです。

本年度は、本丸入口周辺における遺構の現存状況などを確認する目的で、昨年9月から約3ヶ月間の調査を実施しました。その結果、正門から本丸へ続く石段や石垣、折れ曲がる石列などの入口施設、また石垣の積み直しなどが確認されました。昨年度の調査で確認された建物の礎石列を含め、正門から本丸の内部へ続く防御施設の様子などが少しずつわかってきています。（那須烏山市教育委員会 0287-88-6223）



烏山城跡の位置



正門から続く石段（南西から）



折れ曲がる石列（南から）

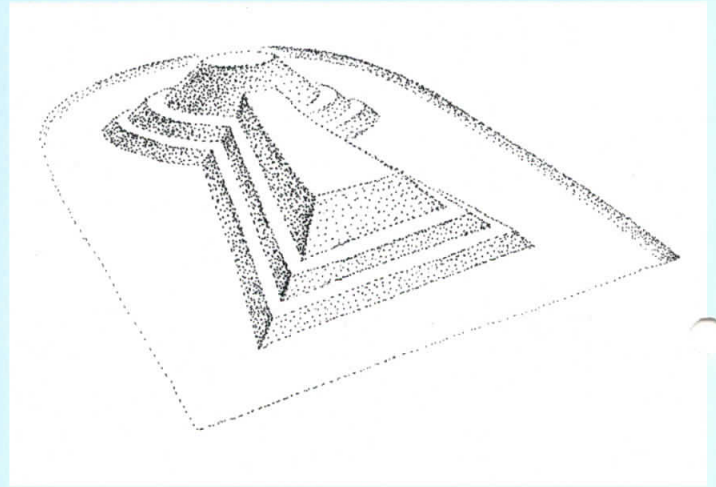
特集

古墳の形

古墳は、上から見た形によって、いくつかの種類に分けられます。円墳、方墳、前方後円墳、前方後方墳がおもなもので、他にもそうほうちゅうえんぶん双方中円墳、はっかくふん八角墳、じょうえん か ほうふん上円下方墳などがあります。



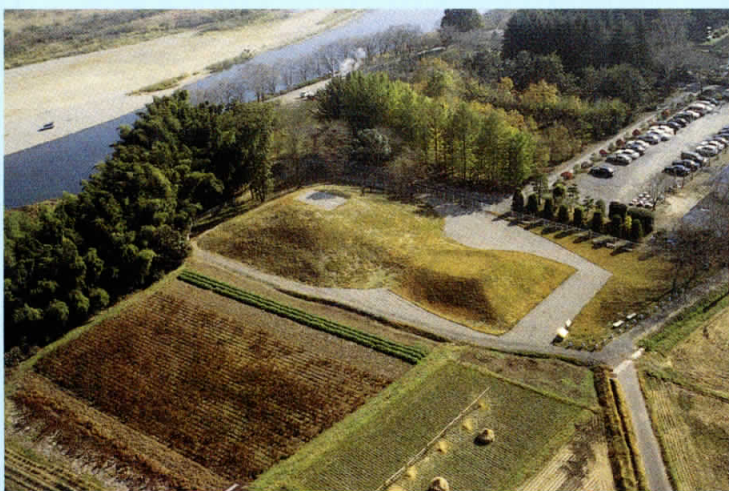
はんがんづか
判官塚古墳（鹿沼市）



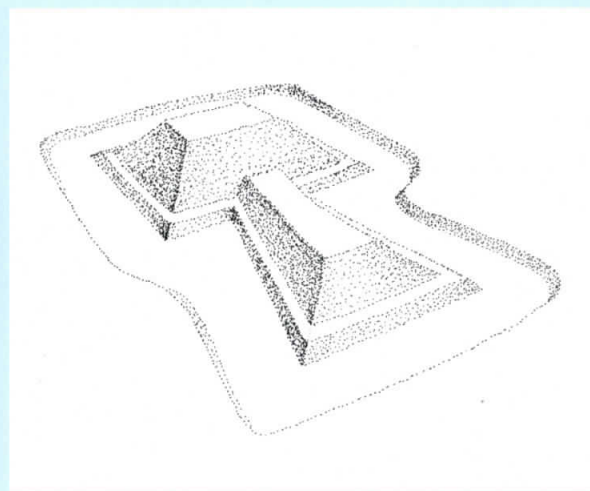
前方後円墳

“鍵穴”の形をした古墳です。方形の部分の前、円形の後ろに見立て「前方後円墳」と呼ばれています。名付け親は、江戸時代の学者蒲生君平（宇都宮出身）です。前方後円墳は大形のものが多く、地域を支配した人物の墓と考えられます。

全国で4,750基以上、栃木県で約220基が見つっています。



なすはちまんづか
那須八幡塚古墳（那珂川町）



前方後方墳

前方後円墳の後ろの円形部分が方形になった形の古墳です。栃木県的那須地方は前方後方墳が多い地域として有名です。前方後円墳同様、地域の支配者の墓と考えられます。

全国で450基以上、栃木県で20基以上が見つっています。

二段に
が四角い

今から1,750～1,300年前頃、東北地方南部から九州地方で作られた、土を盛った墓を“古墳”と呼びます。全国で15万基以上、栃木県で5,000基以上が発見されています。古墳の築造には多くの人手を必要とし、遺体を納めた棺^{かん}や石室を置くこと、その中に鏡などの貴重品が供え物として見つかることもあり、有力者の墓と考えられます。

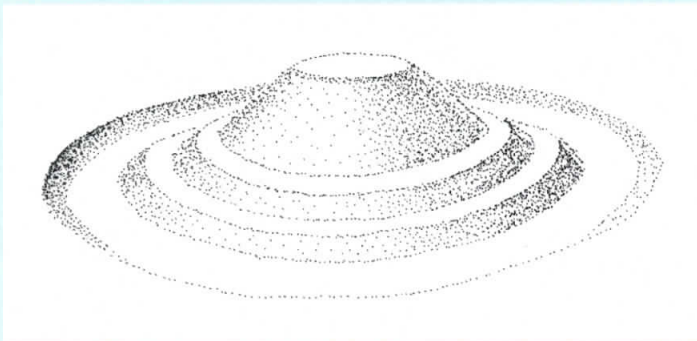
※ 多くの古墳は周囲に溝を巡らしています。



車塚古墳（壬生町）

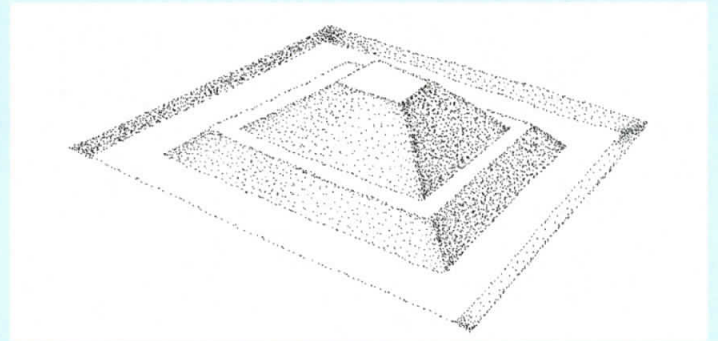


多功南原1号墳（下野市）



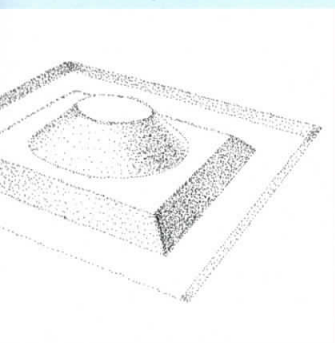
円墳

円形をした古墳を円墳と呼びます。古墳の中で最も数が多いのが円墳です。



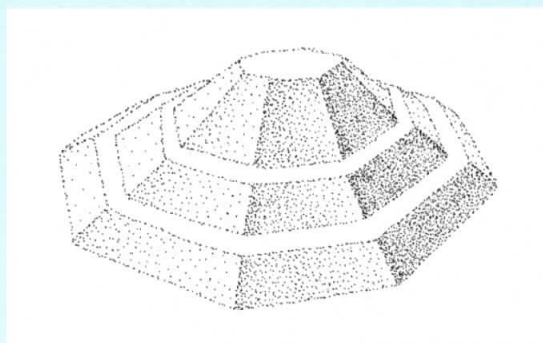
方墳

正方形に近い形の古墳で、あまり数は多くありません。



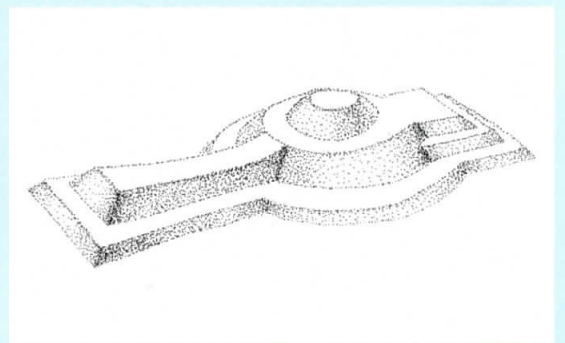
上円下方墳

造られ、上が円形で下四角の古墳です。



八角墳

上から見た形が八角形の古墳です。



双方中円墳

中央の円形の部分から両側に四角い部分が突き出す形の古墳です。

ドキ土器体験! part 1

勾玉づくりと土器づくり

埋蔵文化財センターでは、生涯学習活動の一環として、様々な活動を行っています。ここでは人気の高い「勾玉づくり」と「土器づくり」を紹介します。今年度も色々な場所にお邪魔しました。



まがたま 勾玉づくり

滑石かっせきというやわらかい石をやすりで削って形をととのえていきます。小学校などが埋蔵文化財センター見学時に一緒に体験することが多いのですが、いろいろな場所へ出張することもあります。子どもだけでなく先生や親が夢中になることも。削って磨いて1時間半ほどで完成です。「昔の勾玉はもっと固い石を削ったんだよ。」と言うとみんなびっくり。



勾玉作り七つ?道具





土器づくり & 土器焼き



本物の土器を見本としながら作業できるのが、埋蔵文化財センターの土器作り講座の特徴です。担当職員が、土器の作り方や文様の付け方を丁寧に説明します。



宇都宮市立姿川中央小

粘土紐を積み上げて土器の形を作ります。



土器を作るう会

見本の縄文土器を見ながら文様を付けます。



佐野市立飛駒小学校

最初は火の周りで、時間をかけて乾燥させます。

ビフォー → アフター



乾燥させた後、炎の中で焼き上げ、冷却させて完成です。

どっちが昔の土器？

こんな講座もやっています

古代炊飯体験

復元した古墳時代の土器を使い、お米を調理して食べる「古代炊飯体験」も行っています。今年度は栃木市立大平中央小学校5年生のみんなが自分たちで作ったお米を調理しました。今回は甕かめに米と水を入れて炊くという簡単な方法で行いました。結果は・・・見事炊きあがりました。「ちょっと焦げてるけどおいしい。」と、みんな笑顔で食べていました。



学校で歴史学習出前授業！

栃木県埋蔵文化財センターでは学校教育との連携を目的に出前授業を行っています。

センター職員が学校にお邪魔して「身近な地域の歴史」の授業をします。一番の特徴は、学校の近くの遺跡から出土した本物の土器を間近で見たり、触ったりしながら、歴史を学ぶことです。



土器に触ってドキドキ！

土器を時代順に並べかえてみよう！

センターで職場体験！

県内の中学生、高校生の職場体験を受け入れています。今年度は中学校7校、高校2校、計28名の生徒さんがセンターで職場体験を行い、実際の仕事と同じように整理作業を体験してもらいました。土器を洗ったり、大きさを測ったり、慣れない作業を頑張りました。このなかから未来の考古学者が誕生するといいいですね。



水洗・遺物の泥を洗って
きれいにします。



拓本・土器の文様を墨と紙を使って写し取ります。



注記・遺物に遺跡名や出土
位置などの情報を書
き込みます。